

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

（分担研究報告書）

がん専門相談員の研修における学習評価資料作成に関する研究

研究分担者 近藤 まゆみ 北里大学病院 看護部
研究協力者 福地 智巴 静岡県立静岡がんセンター疾病管理センター よろず相談
研究協力者 酒見 惇子 神戸大学医学部附属病院 緩和ケアチーム／がん相談室
研究協力者 横川 史穂子 長野市民病院 がん相談支援センター
研究協力者 櫻井 雅代 国立がん研究センターがん対策情報センター
研究分担者 高山 智子 静岡社会健康医学大学院大学 社会健康医学研究科 教授

研究要旨：

【目的】がん専門相談員を対象とした研修において、研修受講者がより客観的に学習の評価をできることを目指して、基礎研修（3）に関するルーブリックを作成することを目的とした。

【方法】質的記述的研究。基礎研修（3）に関する資料をもとに、がん相談の経験が豊富な関係職種によるディスカッションを行い、内容を検討した。

【結果】がん専門相談員に必要とされている〈学習課題〉について 9 項目があげられた。これらの学習課題がどの程度達成されたかを判定するための評価の区分〈評価尺度〉について、レベル 1～5 を設定した。その後、各学習課題に求める具体的なスキルやコンピテンシーの論点を端的に表現した〈評価観点〉を作成し、評価観点における評価尺度に応じた学習者の行動や態度、典型的なパフォーマンスの特徴を記述した〈評価基準〉を作成した。

【考察】アクティブラーニング形式の研修である基礎研修（3）に関する学習評価資料「ルーブリック」の作成を行った。がん専門相談員に求められる基本的な能力が段階的に示されており、研修後の評価に活用できると考える。今後は関連機関において試行し、実施可能性および効果的な活用方法について検討を行う必要がある。

A. 研究目的

がん対策基本計画が策定され、がん相談支援センターが配置されて 20 年となった。がん専門相談員は、多様化・複雑化する相談に対して第一次窓口として対応していくために、がんにまつわる幅広い知識や相談スキルが求められている。

現在行われている基礎研修（1）～（3）は、すべてのがん専門相談員が同じ研修目的・目標のもと参加するがん相談の基礎的研修である。基礎研修（1）、（2）は講義形式の e-learning で、基礎研修（3）は相談対応事例を活用しグループワークを中心とした、アクティブラーニング形式の研修となっている。

アクティブラーニングとは、講義形式の教育とは異なり、学習者が主体的かつ対話的に学びを深める教育法であり、業務に取り組む際の基本的な行動様式や意識に変化をもたらすような取り組みが特徴である。そのため、学習者の理解レベルや習得度合いを点数で評価することが難しく、客観的な評価が困難という特徴がある。これまでの基礎研修（3）の研修後評価についても、参加者の主

観的なアンケート結果に寄るところが大きい。この課題に対する対応として、例えば学校教育では、グループワークや発表などパフォーマンスの評価指標であるルーブリックが導入されている。

ルーブリックとは、評価対象となる具体的な行動を質的に記した「評価の観点」と、それがどこまで達しているかを判断するための「評価基準」をレベルに分けて整理した評価ツールであり、多面的な能力を総合して発揮されるパフォーマンスを評価することに適していると言われている。様々な背景にある研修受講者が研修参加の評価を客観的に把握できることを目指して、基礎研修（3）に関するルーブリックを作成することを目的とした。

B. 研究方法

- 1) 質的記述的研究
- 2) 基礎研修（3）に関する以下の資料「受講生資料」「ファシリテーターマニュアル」「講義用スライド」、およびルーブリックに関する文献を参考に、「基礎研修（3）ルーブリック」の試作版を作成した。作成においては、がん相談の経

験が豊富な看護職、福祉職、心理職によるディスカッションを行い、内容を検討した。

(倫理面への配慮)

本研究は、個人情報収集しないため研究倫理審査には申請していない。

C. 研究結果

がん専門相談員に必要とされている「学習課題」について、基礎研修（3）に関する資料を検討し、以下の9項目があげられた。

- がん対策、がん診療における相談支援の役割について知り、発展的に役割を担う
- 相談方法・ツール（対面、電話、オンライン等）の違いによる相談対応の特徴を踏まえて対応する
- 想いを受け止める
- 困りごとの本質を共に考え、共有する
- 患者・家族・医療者の関係の強化や改善のために働きかける
- 信頼できる情報を見極め、相談者に合わせた情報支援を行う
- 相談者のその人らしい意思決定を支援する
- 相談対応の質を担保し、相談対応力の向上に努める
- 相談員のストレス・マネジメントを行う

次に、これらの学習課題がどの程度達成されたかを判定するための評価の区分である「評価尺度」を検討した。段階をレベル1～5に分け、それぞれ「レベル1：要素を知る」「レベル2：基本姿勢を持つ、具体的なアクション・行動がとれる」「レベル3：具体的な人の言動や関係性などを適切に捉え対応する」「レベル4：人の言動や関係性などの背景、見えないものを捉え対応する(例：予後予測、リスク、価値観など)」「レベル5：複雑性、困難性が、より高い状況を捉え対応する」とし、すべての学習課題を同じ基準の尺度で作成できるようにした。

次に、各学習課題に求める具体的なスキルやコンピテンシーの論点を端的に表現した「評価観点」を作成し、それぞれの評価観点における評価尺度に応じた学習者の行動や態度、典型的なパフォーマンスの特徴を記述した「評価基準」を作成した。最後に全体の構成や内容を吟味し、整合性が保てるよう修正を加えた（資料1）。

D. 考察

学習評価については様々な分野で検討されている。文部科学省では児童生徒の学びを把握するた

めに、多様な評価方法の研究や取り組みの例があげられており³⁾、特に知識やスキルを使いこなすことを求めるパフォーマンス評価については、ルーブリック評価が推奨されている。

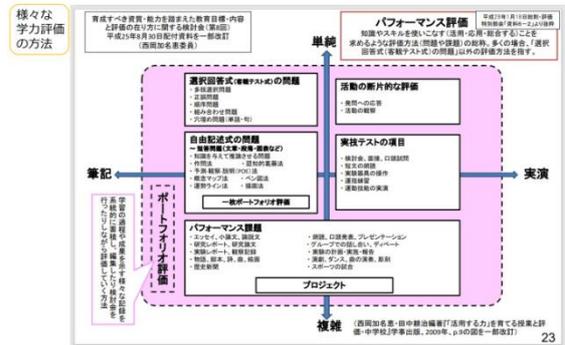


図1 様々な学習評価の方法

今回、アクティブラーニング形式の研修である基礎研修（3）に関する学習評価資料「ルーブリック」の作成を行った。がん専門相談員に求められる基本的な能力が段階的に示されているため、研修後の評価に活用できると考える。

学校教育で使用されているルーブリックは、教員が生徒を評価することが目的のひとつであるが、本ルーブリックは、研修主催者が受講者を評価することが主な目的ではない。受講者自身が今の自分の状況と研修の効果を客観的に把握し、研修後も、自己のがん相談対応能力の向上のための資料として活用することを目的としている。そのため効果的な活用方法について検討を重ねていく必要があるだろう。さらに、今後NCC以外の組織での研修開催に向け、スタンダードな評価指標のもとで取り組める資料としての活用も期待できる。今後は関連機関において本ルーブリックを試行し、意見を収集し修正を繰り返しながら、実施可能性を検討・評価する必要がある。

基礎研修（3）はがん専門相談員の基礎的な研修であり、求められる能力のすべてが網羅されている研修ではない。基礎研修（3）には組み込まれていないが、がん専門相談員にとって必要な学習課題や評価観点についても意見が出された。今後はがん専門相談員に求められる学習課題全体についても検討していくことが求められる。

E. 結論

がん専門相談員を対象とした基礎研修（3）に関する学習評価資料「ルーブリック」の作成を行った。がん専門相談員に求められる基本的な能力が段階的に示されており、受講者自身が今の自分の状況と研修の効果を客観的に把握し、研修後も、自己の

がん相談対応能力の向上のために活用できる資料となった。今後は本ルーブリックを試行し、内容の精査と活用方法について検討が必要である。

参考文献

- 1) 糸賀暢子、元田貴子、西岡加名恵、看護教育のためのパフォーマンス評価、医学書院、2020、p8-28
- 2) 森田敏子、上田伊佐子編集、看護教育に活かすルーブリック評価実践ガイド、メヂカルフレンド社、2022、p2-47
- 3) 文部科学省 教育課程部会 総則・評価特別部会（第4回）配布資料 資料6-2学習評価に関する資料
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/061/siryo/1366444.htm

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

資料1 基礎研修（3）ルーブリック

1 がん対策、がん診療における相談支援の役割について知り、発展的に役割を担う

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
がん対策基本法、がん対策基本計画、「がん診療連携拠点病院等の整備について」の指針（指定要件）で求められる役割や相談支援センターで持つべき機能がわかり、対応できる	<ul style="list-style-type: none"> ・がん対策基本法、がん対策基本計画、「がん診療連携拠点病院等の整備について」の指針（指定要件）で求められている役割や相談支援センターで持つべき機能を理解している。 ＊がん診療連携拠点病院について ＊がん相談支援センターについて ＊指定要件で求められていることについて ・上記における組織の中での自分の立場、立ち位置を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・がん専門相談員が行う相談対応について理解している ＊Core Valules ＊相談支援のプロセス ＊相談対応の10の原則 	<ul style="list-style-type: none"> ・Core Valules/相談支援のプロセス/相談対応の10の原則を意識しながら相談対応を行うことができる ・行った相談対応について、客観的に振り返ることができる/機会を持つことができる -部門内カンファレンス -QA 検討会 -メンタリング等 	<ul style="list-style-type: none"> ・整備指針で求められている相談対応ができているか検討することができる ・行っている相談対応等の課題を整理することができる ・新たな（これまでに経験のない）相談内容であることや、対応方法に課題があることに気づくことができる ・新たに生じた課題について整理することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応現場で起きていることを把握し、新たな体制づくりにつなげられる ・整理された課題について、検討することができる -部門内 -施設内 -県内/広域/全国等 ・課題に対する対応策を提案できる -部門内 -施設内 -県内/広域/全国等

2 相談方法・ツール（対面、電話、オンライン等）の違いによる相談対応の特徴を踏まえて対応する

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
相談の形式、相談者のいる場所、対象による対応方法や範囲の違いを理解し、対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応ツールの特徴、メリット、デメリットがわかることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応ツールの特徴、メリット、デメリットを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応ツールの特徴を踏まえて、対応する 		
社会の変化に伴い、新たに活用するツールを理解し、対応する	<ul style="list-style-type: none"> ・相談対応に利用できる既存/新たな支援ツールがあることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存/新たな支援ツールを利用する際の留意点があることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内のルールや方針に照らし合わせて、既存/新たな支援ツールの対応・導入方法を考えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内のルールに照らし合わせて、既存/新たな支援ツールを導入できる ・必要な場合には、既存/新たな支援ツールの導入を提案できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入した既存/新たな支援ツールの利用状況の分析や課題を整理し、維持/発展的に利用できる

3 想いを受け止める

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
相談者が自身の考えや想いを自由に述べることのできる雰囲気を作ることができる	<ul style="list-style-type: none"> 相談対応を行う上で話しやすい場や雰囲気が大事であることに気づくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 話しやすい場を作る方法が分かる *プライバシーが保てる場の確保 *面談室内のレイアウトの配慮 *同意を得ず相談内容を外部に漏らさないことを保障する *匿名での相談を受け付ける 	<ul style="list-style-type: none"> 話しやすい雰囲気を作ることができる *言葉遣い、声の大きさ、トーン *沈黙や間を効果的に使う *相談者の発言に被らないように発言する 		
相談者に興味を持ち、先入観を持たず相談者の語りを聞くことができる	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の語りを関心を持ってきて 	<ul style="list-style-type: none"> 相談員自身が相談者を評価したり先入観を持つ可能性があることを自覚する 	<ul style="list-style-type: none"> 先入観を持ったりレッテルを貼らずに話を聞くことができる ・最初から結論を持たずに話を聞くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談員に対する期待を把握することができる ・相談者の人となりや、相談者の視点で捉えることができる 	
相談者の感情を受け止めることができる	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の感情を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の感情に合わせた話し方や聞き方が分かる(姿勢、トーン、話し方など)。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の感情に合わせた話し方、聞き方ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情緒的なことに巻き込まれ客観性を失わないよう、適切な距離を保つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・怒りや深い悲しみなど、難しい場面にも対応できる
相談者の状況や感情を受け止めて、相談者に確認することができる	<ul style="list-style-type: none"> 相談者が話しやすいと思うような話し方、聞き方ができる。 *受け止める・聞く *遮らずに話を聞ける *適切に相づちできる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者があるがままに受け止め、伝え返す方法が分かる。 *オウム返し、言い換え *要約する 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者があるがままに受け止め、伝え返すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 相談員の反応を通して相談者自身が気持ちや状況に気づけるように反応することができる。 *適切に要約する *聞いたことを適切にフィードバックする 	

4 困りごとの本質を共に考え、共有する

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
主訴とニーズの違いを理解できる	<ul style="list-style-type: none"> 誰が何に困っているのかがわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の主訴（訴えていることや質問）だけでなく、潜在的なニーズがある可能性を意識できる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の主訴とニーズ（潜在的）を明確化できる 相談者が主訴とニーズのズレに気づけるように関わることができる 相談者と相談員のニーズの不一致に気づくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者と相談員のニーズの不一致を共有しながら、取り組むべき課題を明確にしていくことができる 	
全人的視点で対象者や問題を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> 相談者や困りごとを全人的視点（身体・こころ・暮らし・スピリチュアル）の視点から理解する必要性がわかる 困りごとが全人的視点のどの側面で起きているかわかる 	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとが全人的視点の各側面に影響し合っていることに気づくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとが全人的視点の各側面にどのように影響しているかを整理して理解することができる 	<ul style="list-style-type: none"> 困りごとの中に相談者の価値観等を捉えることができる 困りごとの中にある相談者の価値観等を共有する関わりができる 	
疾患の特徴や病態から困りごとを捉える	<ul style="list-style-type: none"> 疾患（部位）の特徴や治療に対する基本的な知識を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の話から患者の病態・病状・病期がイメージできる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の様子（状態）に合わせて、何をどこまで共有するか判断できる 	<ul style="list-style-type: none"> 今後起こり得る問題や課題を予測すること（リスクアセスメント）ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者と起こり得るリスクを共有し、相談者が課題に対して具体的な対策を検討できるように関わる
相談員が自己覚知できる	<ul style="list-style-type: none"> 自分の認識や反応が支援に影響することを理解している 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の苦手なテーマや不慣れな分野に気づける 専門分野（他職種）の人に対応を依頼したり、繋ぐことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談者の様々な価値観に中立的な姿勢で話を聴くことができる 自分の専門分野に偏らずに話を聴くことができる 		

5 患者・家族・医療者との関係の強化や改善のために働きかける

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
関係性を評価し適切な情報提供ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションのあり方を把握したり想像したりできる ・相互理解の程度を推測し確認できる ・医療者との良好な関係が治療や療養に影響することを共有できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係性に影響を与えている要因が推測できる(病態、体制、個性、過去の体験等) ・必要に応じてセカンドオピニオンや他職種の介入について情報提供できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者(患者・家族等)の理解を得た上で、他職種・他機関との橋渡しができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係の強化、改善の可能性、相談員として関われる限界等を踏まえて具体的な対応策を検討したり実施できる 	
医療機関の機能や体制を理解している	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の所属する医療機関の機能や体制を推測し調べたりすることができる ・自分の医療機関の機能や専門性、体制を理解している 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者に関わりのある医療チームメンバーを推測し相談者に確認することができる ・相談者から見たキーパーソンとなる医療チームメンバーを推測し相談者に確認することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の思いや期待を受け止めながら、できること・できないことを適切に説明することができる。また、そのためのツールを準備できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・院内の各チームにおけるチームリーダーになる人を把握し、関係を構築していく意識を持つことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から医療スタッフと情報共有やフィードバックし合える関係を築く努力をする ・チームが育つのを信じて待てる
橋渡し役や代弁者となる	<ul style="list-style-type: none"> ・チームの一員としての認識を持っている ・相談者にとって適切な利益になるためにはどうしたら良いかを考えられる ・それぞれの言い分を中立的な立ち位置で聴くことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰と誰、何と何の関係性の中で齟齬が生じているのかに気づくことができる ・患者・家族・医療者間のパワーバランスを推測したり把握することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者が全体を俯瞰して自分の状況を理解できるように関わることができる ・齟齬が生じている点を患者側・医療者側のそれぞれの立場から意識して伝えることができる ・必要に応じて相談者(患者・家族等)の理解を得た上で代弁者になれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の橋渡しや代弁者としての役割を遂行する上での留意点や限界を把握し、行動できる 	

6 信頼できる情報を見極め、相談者に合わせた情報支援を行う

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
正しい適切な情報を得るための情報支援の必要性がわかる	・相談者への情報支援の必要性を理解している	・情報探求において、相談者が陥りやすい点を述べることができる	・主訴の内容から、相談者が正しい適切な情報を得る必要があることがわかる	・主訴には表現されていない内容でも、相談者が正しい適切な情報を得る必要があることがわかる	
信頼できる情報かどうかを精査し、正しい情報を提供できる	・基本的なPCスキルを習得し、情報検索ができる ・信頼できる情報と不確かな情報があることを理解している	・信頼できる情報と不確かな情報を極める方法について理解している	・氾濫する情報のなかで、信頼できる正しい情報は何かを見極めることができる ・信頼できる正しい情報を提供することができる	・新しく入手した情報を、その後の相談活動に活かすことができる	・信頼できる情報の管理・運用に組織的に取り組むことができる
相談者が必要としている情報を、その人の状況に合わせて提供する	・相談者が必要としている情報を、その人の状況に合わせて提供する必要性を理解している	・相談者の主訴について情報提供ができる ・院内外の資源を活用し、適切な情報提供先につなぐことができる	・相談者のニーズについて情報提供ができる ・相談者の今後の状況を予測し、状況に合った情報の提供ができる	・相談者の状態（心理状態・理解力・持っている情報の量や質など）に合わせて、伝える情報の量・内容・伝え方を調整することができる ・相談者に知りたくない情報があることを理解し、相談者の状況に配慮しながら情報提供ができる	・主訴やニーズに表現されていない内容でも、相談者の困りごとへの対応に必要な情報がわかり、相談者と共有できる。また、その情報を提供することができる
相談者が情報を探求する力を高めることを支援する	・情報を探求する力を高める支援の必要性がわかる	・相談者の話から、相談者がどのように情報を探求しているのか理解できる ・相談者のヘルスリテラシーを理解するための視点を知っている	・相談者の情報探求の特徴やヘルスリテラシーをアセスメントすることができる	・相談者が必要としている情報を探求できるよう、相談者の情報探求の特徴やヘルスリテラシーに合わせて支援できる	

7 相談者のその人らしい意思決定を支援する

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
意思決定を行う相談者の状況を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援を行ううえで、相談者の状況を理解する必要性がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の話から、意思決定に影響する状況/要因を理解する *身体的状況（例：治療状況とその効果、苦痛症状等） *精神的状況（例：脳転移、うつ・心理的状态、認知症、精神疾患等） *社会的状況（例：経済状況、独居、地域等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定に影響する身体的、精神的、社会的な状況を全人的・統合的に捉えることができる ・相談者の意思決定への猶予が、どの程度であるのかわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の今後の状況を予測し、相談者の意思決定における優先順位がわかる ・相談者の意思決定の能力や価値観を理解し、その人に合わせた支援ができる 	
意思決定に影響を及ぼす周囲の状況を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定支援を行ううえで、周囲の状況を理解する必要性がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定に関わる人がわかる ・意思決定のキーパーソンがわかる ・意思決定に関する他者からの手助けやアドバイスの状況がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定における周囲の意向、力動、パワーバランス等がわかる ・意思決定における周囲の状況が、相談者の意思決定に与える影響を捉えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定における周囲の状況が、相談者の意思決定に与える影響について相談者と共有し、その後の支援につなぐことができる 	
相談者の状況に合わせ意思決定支援ができる	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の話から、意思決定に関する困りごとの内容を明確化する必要性を理解している ・相談者の状況に合わせた意思決定支援の必要性がわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・意思決定の大きさにかかわらず、相談者の主訴から、意思決定に関する困りごとの内容がわかる ・相談者が意思決定に必要な情報を十分に得ているかどうかわかる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の主訴やニーズから、意思決定に関する困りごとの内容と、その選択肢に関するメリット・デメリットがわかる ・意思決定に必要な情報を提供することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者も気づいていない意思決定に関する課題を顕在化させ、相談者と共有することができる ・相談者が意思決定に影響する自己の価値観に気づくことを支援できる ・相談者が自己の価値観に基づいて意思決定することを支援できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談者の意思決定スタイルを理解することができる *パターンリズムモデル、*インフォームドディシジョンモデル、*シェアードディシジョンモデル ・相談者の意思決定スタイルに合わせて支援できる ・意思決定を通して、相談者がエンパワーされることを支援できる

8 相談対応の質を担保し、相談対応力の向上に努める

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
相談支援センターの活動や対応について、客観的に把握する機会を持つことができる	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援センターとしての対応力を維持・向上するために、自分たちの活動や対応を客観的に把握する必要性を自覚する 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援センターの組織としての活動内容について、振り返る場に参加することができる *施設内フィードバック *利用者フィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援センターの組織としての活動内容について、振り返る場を持つことができる *施設内フィードバック *利用者フィードバック ・振り返りの内容を、今後の活動の改善に活かすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援センターの組織としての活動内容について、振り返る場を持つことができる *施設間フィードバック *第三者フィードバック 	
自らを振り返り、がん相談の対応能力を向上させていくことができる	<ul style="list-style-type: none"> 相談員としての対応力を維持・向上するために、学ぶ必要性を自覚する 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の強みと弱点がわかる 自分の能力を高めるために、何を学ぶか、課題がわかる *1つとしてルーブリックを使う 相談員が学ぶための環境、ツールがあることを知っている *QA 評価ツール *都道府県や NCC が提供する研修会 *がん関連の学術集会等 	<ul style="list-style-type: none"> 学ぶ機会を持つことができる 自分の強み・弱みに対応した学習ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学習目標をもち、強み・弱みを認識した上で、効果的に学ぶことができる *自分の学習目標を立てられる *計画的に学ぶことができる 	

9 相談員のストレス・マネジメントを行う

	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
自分や所属組織のストレス・マネジメントを行える	自分やチーム、組織に生じやすいストレスやその解消が必要なことがわかる	<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じているストレスに気づくことができる 自分のまわりにあるサポート資源に気づくことができる 	<ul style="list-style-type: none"> 自分が感じているストレスについて、だれかに話すことができる 自分のまわりにあるサポート資源を活用することができる <ul style="list-style-type: none"> -組織内 -組織外 	<ul style="list-style-type: none"> 他の相談員/スタッフが感じているストレスに気づくことができる ストレスを感じている他の相談員/スタッフの話を聞いたり、サポート資源につなぐことができる 	自分や相談員に必要なサポート資源を、組織内外でつくることができる(ネットワーク化も含む)